第129回 筑波銀行支店長の

わがまち紹介

城里町

人と自然が響きあい
ともに輝く住みよいまち

株式会社筑波銀行 常北支店長
田所 俊幸

城里町長
上遠野 修 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県城里町です。筑波銀行常北支店長 田所 俊幸が城里町長 上遠野 修氏にお話を伺いました。

城里町を茨城県で一番 子育て支援が進んだ町に

2014年9月に町長に就任してからの10年間、「城里町を茨城県で一番子育て支援が進んだ町にしていく」との決意のもと、子育て支援の充実に力を入れてきました。

小中学校の給食無償化は、他自治体より5、6年早く、2018年から実施しています。加えて2019年10月には、国に先駆けて3歳～5歳児を対象に、幼稚園、保育所、認定こども園などを利用する子どもたちの利用料の無償化をスタートさせました。

こうした施策が町民や町外の子育て世帯にも広く知られるようになり、「城里町は子育て支援が進んでいる町」との評価につながっています。

その評価は、町の人口動態にも表れています。以前は15年連続で転出超過となり、多い年には約300人もの転出超過となったのですが、直近では3年連続で転入超過となっています。特に未就学児の転入が多くみられることから、未就学児とその親の世帯の転入により転出超過から転入超過に転換したのは間違いありません。

こうしたことから、この10年間の子育て支援策が実を結んだものと考えています。

また、さらなる子育て支援の充実を図るため、2024年度には、0歳～2歳児の保育料も第1子から無償化します。あわせて自宅で子育てを行う世帯には在宅保育支援金を支給することで、どちらを選択しても支援が受けられるようにします。

町の子育て支援を紹介する専用ウェブサイトを開設

町の観光拠点「道の駅かつら」を移転整備

現在、町の一大事業と位置づける「道の駅かつら」の移転整備事業を進めているところです。道の駅かつらは、1992年に特産品直売センターとして開店し、翌1993年4月に茨城県で第1号、関東でも最初の道の駅として認定された歴史のある道の駅です。

道の駅かつらは、御前山県立自然公園と清流那珂川を望む景勝地に立地し、地元農産物や郷土料理の提供はもちろん、地域の観光拠点としての役割を果たしてきましたが、今後行われる那珂川大橋の架替事業にともない、ルート上にかかる道の駅の移転が必要となりました。

これを道の駅を新しく魅力的に生まれ変わらせる好機と捉え、「城里町特産品直売センターかつら（道の駅）移転整備検討委員会」を組織し、移転整備事業を進めることになりました。

2024年4月には地権者と契約を結んで土地を購入し、造成工事は年度内に発注・完成の予定です。続いて2025年度には建築工事を開始し、2026年春に完成、ゴールデンウィークに合わせてオープンする予定です。

新しい道の駅は盛土した上に建築し、建物は2階建てになります。その2階の窓際をガラス張りにしてカウンター席を設ける計画で、清流那珂川、そして美しい御前山の景色を眺めながらゆっくり食事を楽しんでいただきたいと思っています。

「(新)道の駅かつら」完成イメージ

豊かな自然や特産品を生かした観光のまちづくり

城里町には、道の駅かつらのある御前山県立自然公園をはじめ、ふれあいの里などのキャンプ場、日帰り温泉施設のホロルの湯など、豊かな自然に恵まれた観光拠点があります。今後もこうした施設の連携を図り、観光レクリエーションの振興を進めていきます。

また、町の魅力を町外の人に味わってもらいたいという観点から、様々なイベントを実施しています。

その一つが、茨城県三大銘茶の一つである「古内茶」の産地、古内地区の6軒の茶農家が庭先を解放して観光客にお茶をふるまう「古内茶庭先カフェ」です。2019年から6月と11月の年2回開催し、地区内にある国登録有形文化財の古民家「島家住宅」もコースに取り入れ、茶園巡りを楽しんでもらっています。

2023年11月には、ホタルを「町の虫」に制定しました。県内で昆虫をシンボルにするのは初めてだということですが、町に生息するゲンジボタルは日本固有種で、茨城県が準絶滅危惧種に指定する希少な種類です。このゲンジボタルは町内全域に生息しており、これは町内の河川の清らかさと自然の豊かさの証です。自然保護思想の普及とともに、自然豊かなまちづくりや観光の振興に寄与することを期待しています。

こうした町の魅力を県内外へPRし、町のイメージアップに取り組んでもらうため「しろさとPR部長」を新たに2名募集しました。任期は2024年4月1日から2026年3月31日の2年間の予定です。

地域おこし協力隊の卒業生の多くが町内で就農

城里町の主要産業の一つは農業で、主な農産物は米と野菜です。なかでも米は評価が高く、2023年12月に開催された「第3回いばらき米の極み頂上コンテスト」では、町の生産者が第1位から3位までを独占するという快挙を達成しました。

町では、地域おこし協力隊による活動が盛んに行われ、町内で農業を学んだ卒業生の多くが、そのまま町内で就農しています。

その理由として一番に挙げられるのが、町の方々の「人の良さ」。地元農家の皆さんが地域おこし協力隊として町外から来た若い就農希望者を温かく迎え入れています。進んで研修生を受け入れ、技術を教えたり、独立に向けて農地を探してあげたり…。研修先や地域の協力体制に恵まれているということも、大きな理由だと考えています。

行政として主体的に事業に取り組んできたことも奏功したと思います。10年前から農業政策課の担当者が一生懸命研修先を探したり、協力隊の受け入れを増やしたりしてきたことで、良い研修先も増えてきました。そうして地域のなかで協力隊を育てていこうというカルチャーが育まれてきたのだと思います。

また、さらなる農業の振興を目指し、2024年2月に農業系ベンチャー企業の株式会社日本農業と「『農業発展と地域の活性化』に関する連携協定」を締結し、農業人材の育成や農地の確保を協力して行っていくことになりました。同社はすでに青森のりんごの輸出などで実績があり、城里町では梨と桃の栽培を行い、世界中に輸出していく計画です。

地域おこし協力隊の場合もそうでしたが、役場が間に入って土地の集約や農家の説得などを行うサポート体制を取ることで実現できたと思っています。

地域おこし協力隊による活動の様子

プロスポーツとの連携・交流を強化し町のイメージアップに

城里町では、プロスポーツチームとの連携や交流を強化することで、町民のスポーツ振興はもちろん、交流人口を増やして町のイメージアップを図り、知名度を上げていきたいと考えています。

サッカーJリーグの「水戸ホーリーホック」とは、2016年7月に旧七会中学校の跡地利用整備に関する協定書を締結し、施設の一部をクラブハウス、練習場として運用することで合意しました。廃校を活用した行政施設とプロサッカーチームのクラブハウスの複合施設は日本初の試みで、2018年1月に七会町民センター「アツマーレ」として供用を開始しました。

それ以来、水戸ホーリーホックの選手が町内の子どもたちを指導するイベントが開催されたり、選手が城里町のPR大使に就任したりするなど交流を続けており、町の魅力の発信に大いに貢献してもらっています。

2023年8月には、バスケットボール男子Bリーグ1部「茨城ロボッツ」を運営する茨城ロボッツ・エンターテインメントと「フレンドリータウン協定」を締結しました。教育・文化やスポーツの振興、町民交流や地域活性化など幅広い分野で相互に発展的な取り組みを進めていくことになりました。町でも茨城ロボッツを応援する機運を高めようと、町民を試合観戦に無料で招待したりしています。

プロスポーツとの連携・交流の強化には、プロスポーツとの交流が地域住民の誇りとなり、愛郷心の向上、引いては子どもたちが町外に出ないで地元に定着する、一つのきっかけになってほしいとの願いも込められています。

城里町は中学校スポーツが盛ん部活動の地域化をスタート

城里町は中学校の運動部の活動が盛んです。野球が強く、サッカーも常北中が2023年の県大会で準優勝しました。最近ではバスケットボールが強くなってきています。

ただ、運動部を指導する担い手不足は他の市町村同様に課題となっています。町には各スポーツの少年団組織がありますから、まずは各競技団体に土日の中学生の指導をお願いしているところです。徐々に協議が整い、2024年度からいくつかの部活動について、地域の指導者が土日に指導することになりました。

高齢者の移動手段確保に福祉有償運送を活用

少子化対策では、子育て支援として保育料の無償化、小中学校の給食の無償化のほか、保護者から要望の多かったおひさま学童クラブ園舎の建て替えを行い、2023年12月に完成しました。また、スクールバスが利用できない遠距離通学の児童の保護者を対象とした路線バス定期代の補助、送迎ガソリン代の補助制度を創設しました。

高齢者の移動手段の確保については、国土交通省の「福祉有償運送制度」の認可を受け、城里町社会福祉協議会が事業主体となって自家用車によるドア・ツー・ドアの輸送サービスを行っています。福祉有償運送は、タクシーに比べて割安に利用できるのが特徴です。現在、利用できるのは要支援・要介護認定を受けた方のみですが、運転免許を返納して移動手段のなくなった方のことも考慮し、今秋から交通空白地有償運送制度を導入します。自分で自動車を運転することができない75歳以上の方を対象に、移動支援を実施していきます。なお、この制度を全域で行っている自治体は、県央・県北地域では城里町が初めてとなります。

停電しない避難所づくりのために太陽光発電、蓄電池を導入

2024年1月の能登半島地震では、発生から2週間が経過しても停電が続く世帯が数多くありました。城里町では、2024年度に役場本庁舎とコミュニティセンター城里に太陽光発電と蓄電池を設置し、「大規模災害時にも停電しない避難所」づくりを行っていきます。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんには、小回りの利く地域金融機関として、融資はもちろんですが、経営に関するアドバイスの提供などにより、地域の企業をしっかりと育ててほしいと思います。

（取材日：2024年3月4日）

わがまちの特産品

城里町

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

城里町は、自然豊かな里山の町。山間の土地を生かしてさまざまな特産品が作られ、古くからお茶の産地としても知られています。このコラムでは、城里町ブランド推奨品の農産物として、「ななかいの里コシヒカリ」「レッドポアロー」「古内茶」を紹介。また、これらの商品などを購入できる町内の直売所も紹介します。

ななかいの里コシヒカリ

城里町では品質にこだわったブランド米が生産されています。そのうちの一つ「ななかいの里コシヒカリ」は、米のおいしさを競う全国大会で複数回第1位に輝いています。この米を栽培している旧七会村地区は、約8割を森林が占める美しい自然が残る中山間地。水、土地、気候に恵まれ、古くから良質米の生産地として知られ、江戸時代には水戸藩代々の献上米産地でした。

レッドポアロー

旧桂の圷地区、那珂川流域の沖積土で丹精込めて作られた鮮やかな赤紫色が特徴の赤ネギです。その風味は、辛みが少なく、やわらかい葉先まで楽しむことができます。生はもちろん、加熱すると甘みが増すので、鍋物、お味噌汁にもおすすめ。茨城県三大伝統野菜に数えられ、希少な在来品種として食の世界遺産にも認定されています。

古内茶

古内地区を流れる藤井川の清流に沿って栽培されている古内茶は、奥久慈茶・さしま茶と並んで茨城三大銘茶に数えられています。豊かな香りと渋み、甘みが調和したバランスの良いお茶で、かつて徳川(水戸)光圀公が称賛し、「初音」と名づけたお茶が起源とされています。近年では定番の緑茶だけでなく、和紅茶も人気です。

ここで買えます！

道の駅かつら

那珂川にかかる那珂川大橋のほとりにあり、関東で最初に認定された道の駅です。直売センターには赤ネギ「レッドポアロー」をはじめ、旬の地場野菜や加工品、地元作家による工芸品などが並びます。地鮎の塩焼きや郷土料理のけんちんそばなど、地元グルメを満喫できる食事スポットとしても人気です。

茨城県東茨城郡城里町御前山37
営業時間／[直売所]4～9月は9:00～18:00、10～3月は9:00～17:00
[食堂]11:00～14:00(土日祝は～15:00)
定休日／なし
お問合せ／TEL.029-289-2334

ここで買えます！

物産センター山桜

旧七会村の里山風景のなかにある直売所です。ブランド米の「ななかいの里コシヒカリ」や古内茶をはじめ、地場の新鮮野菜や果物、きのこ、山菜、加工品などを取り揃えています。食堂「やまざくら」は地元の常陸秋そばやお米、野菜を使い、地元の食材にこだわった食事を提供しています。

茨城県東茨城郡城里町小勝80
営業時間／[直売所]4～9月は8:00～18:00、10～3月は8:00～17:00
[食堂]11:00～16:00
定休日／1月1日～5日
お問合せ／TEL.0296-88-2300